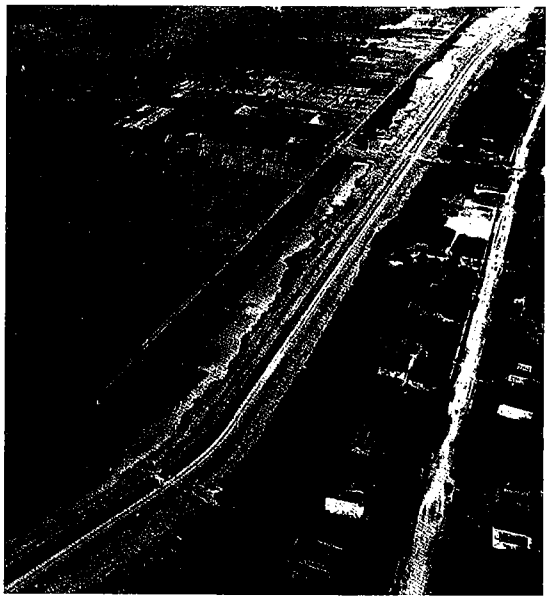
ワイラレム灌漑事業（Ⅰ）（Ⅱ）

インドネシア



▲二次水路の遠景
水路網の整備された地区では、稲作の二期作が可能となり、収穫量が大きく伸びています。

■事業概要

	借款契約締結日	借款金額
ワイレラム灌漑事業（Ⅰ）	1979年３月	73億6,500万円
ワイレラム灌漑事業（Ⅱ）	1980年５月	102億4,500万円

本事業は、スマトラ島ランポン州のラレム川流域において、米生産の増大、受益農家の生活水準の向上を図ることを目的として、22,000haの耕地に灌漑施設（ダムおよび幹線水路63km・２次水路123km・３次水路網9,300ha）を建設しました。事業実施機関は公共事業省水資源総局ですが、現場での実施は、プロジェクト・マネージャーの下に主要施設の建設部門、維持管理部門、財務部門などを配したワイラレム・プロジェクト・オフィスが担当しました。

OECFは、上記灌漑施設の建設費、およびコンサルティング・サービス費用に対して借款を供与しました。

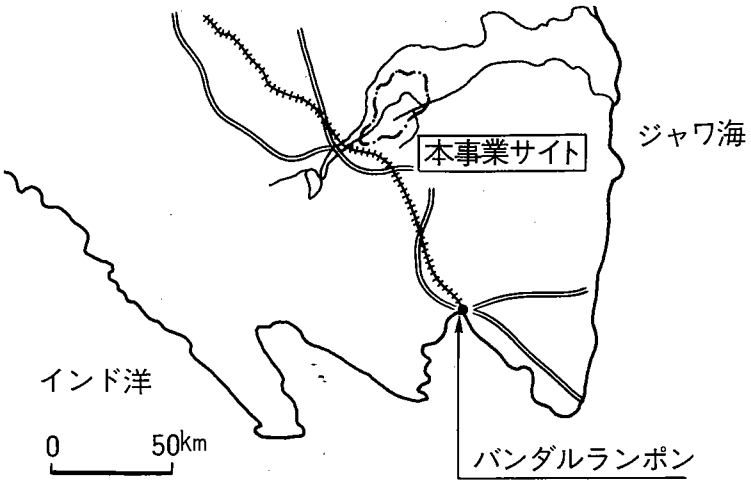
■完成後の運用に係わる評価

本事業において建設された設備の維持管理は、1992年12月頃に見込まれる継続事業の完成までの期間は、ダム、幹線水路及び２次水路を、プロジェクト・オフィスの維持管理部門（スタッフ数98名）が担当し、第３次水路以降を水利用者組合（1989年12月時点での組合数は225）が担当しています。

継続事業の完成後は、ダム・幹線水路及び第２次水路の維持・管理はプロジェクト・オフィスから州政府公共事業部に移管されます。この円滑な移管のためには、水管理の手法等を含めたマニュアルを整備するとともに、州政府公共事業部の維持管理スタッフならびに水利用組合のリーダー達に対するトレーニング等を通じ、プロジェクト・オフィスから、それまでの経験で生まれたノウハウを十分伝えていく努力も必要と考えられます。なお、現在までのところ、設備の維持管理については、事業効果発現に影響を与えるような問題は生じていません。

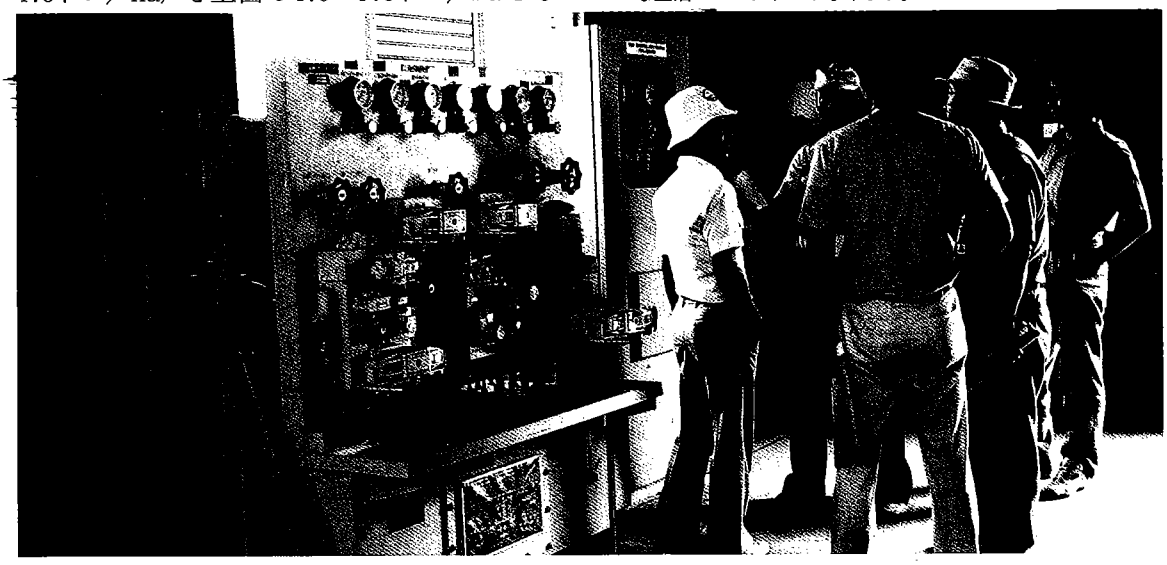
営農状況について見てみると、既に灌漑の開始されている地区の作付体系の実績は、稲の二期作が中心となっており、事業実施前の平均的な作付体系は、稲作とキャッサバ等の混合一期作であったことから、事業効果が大きく現れていることが窺えます。

また、灌漑用水の供給開始のみならず改良品種の導入等の営農面での努力もあいまって、一期あたりの稲の収量については事業実施前の約 1.2トン／ha(陸稲)に対し、事業実施後は4.9～5.5トン/haとなっています。



■事業効果

本事業の対象地域では、1984年頃から順次灌漑が開始され、1990年8月時点で本事業完成分9,325haと継続事業分を併せ、全体で計画値の約7割にあたる約16,000haの灌漑面積となっています。既に灌漑の行われている地区では、雨期・乾期ともに豊富な配水を基にして稲の二期作が中心に行われ、一期あたりの稲の収量は計画（雨期4.5トン／ha）を上回る4.9～5.5トン／haとなっています。事業実施前には約1.2トン／ha（陸稲）であったとされていることから、灌漑地全体としては、未完成ながらも本事業によって完成した部分では既に米生産量の増加という当初目的を達成しつつあることが確認されました。

（評価時期：1990年10月）

▼ダムの管理事務所に設置された機器
水の管理をしっかりと行なうことは、米の増産を通じて、豊かな生活へのステップとなります。